

CONTENTS

ごあいさつ ..... 1  
 総会特集 ..... 2  
 事業計画・声明書 ..... 3~5  
 講演録・活動報告 ..... 6  
 活動報告 ..... 7~9  
 参加録 ..... 10  
 お知らせ ..... 11  
 役員名簿・編集後記 ..... 12

# 21世紀の エネルギーを 考える会・みえ



【東員町のコスモス】

ご  
あ  
い  
さ  
つ



会長 小菅 弘正

会員の皆様方には、当会の事業活動につきまして格別のご理解、ご支援を賜り厚くお礼申し上げます。

当会は、これまで、エネルギー・環境問題は県民一人ひとりの問題として訴え、国策を踏まえた立場で低炭素社会の実現に向けた活動を展開してまいりました。

そのような中、東日本大震災による東京電力福島第一原子力発電所事故が、我が国のエネルギーのあり方について新たな課題をもたらしました。

エネルギーは、国民の生活や産業活動を支える重要な基盤ではありますが、国内に資源の乏しい我が国は、エネルギーの大部分を海外からの輸入に頼っていることから、世界のエネルギー情勢の変化に大きく影響される可能性があります。

一方で、電力供給確保のため全国の火力発電の運転により、国内の温室効果ガスの排出量が著しく増加し、地球温暖化問題が深刻化しております。

この夏も電力不足が懸念されていましたが、各電力会社の最大限の努力による供給力確保と企業および国民の皆様の省エネルギーや節電への取組みによりどうか停電は回避されました。

今後も、全国的に電力供給不足が懸念される中では、継続的な供給力の確保とライフスタイルの変革による省エネルギーや節電への更なる取組が必要ではないでしょうか。

今、国においては、新たなエネルギー基本計画の策定に向け、政府主導による「エネルギー・環境の選択肢に関する国民的議論」が行われ、この9月14日には政府のエネルギー・環境会議が「革新的エネルギー・環境戦略」を決定されました。

その内容は、省エネルギー・再生可能エネルギーといったグリーンエネルギーを最大限に引き上げることを通じて、原発依存度を減らし、化石燃料依存度を抑制することを基本方針とした「原発に依存しない社会の一日も早い実現」、「グリーンエネルギー革命の実現」、「エネルギーの安定供給」の三本柱であります。

再生可能エネルギーの積極的活用は重要ではありますが、それぞれに課題があるとともに、不安定な電源であることから主要電源としては問題があります。

エネルギー源は、特定の電源に依存するのではなく「多様化」することが重要であると考えます。

いづれにしても、我が国の経済社会と国民生活には、エネルギーの「安全確保」、「安定供給」、「経済性」、「環境適合性」を考慮した政策が不可欠であり、特に、超少資源国である日本の持続的発展、経済成長に繋がるエネルギー基本計画が策定されることを望むものであります。

エネルギーや環境問題は、国・県はもとより国民一人ひとりが自分自身の問題として捉え、考え、行動することが重要であります。

そのため、国のエネルギー基本計画が策定された暁には、当会としてはその内容を踏まえ、「正しい情報発信」による「正しい理解・判断・行動」に繋がる啓発活動を展開してまいります。

今後も会員の皆様のより一層のご支援とご理解を賜りますようお願い申し上げます。



■挨拶する小菅弘正会長

当会では、6月5日(火)、ホテルグリーンパーク津において、17回目となる平成24年度総会を開催し、会員をはじめ240名の方にご参加いただきました。総会の冒頭、小菅会長は「東日本大震災後、特に太陽光や風力発電などの再生可能エネルギーが期待されていますが、現時点では不安定な電源で主戦力にはなれず、過大評価されすぎている懸念があります。「正しい情報」の発信こそが、「正しい理解」に繋がるものだと思います。あらゆる面からの議論を踏まえた上での『ベストミックス』を望むものです。当会は、低炭素社会の実現に向けた正しい理解層の拡大を図るためにも、エネルギーや環境に関する啓発活動を啓発していきたいと考えておりますし、県民の皆様一人ひとりがそれらを自分自身の問題として真剣に考えていただくきっかけになるような情報提供をしてまいりたいと考えております」と挨拶しました。

また来賓を代表し、経済産業省中部経済産業局資源エネルギー環境部の稲井田敬一電源開発調整官は、「関西電力等の需給が厳しい地域への融通のこともございまして、中部電力管内においても5%の節電をみなさんをお願いしようと思っております。ただし、一昨年の夏に比べ、既に定着している節電分3.6%を含めた5%の節電の目標となっておりますので、経済活動や日常生活に支障が生じる厳しい対応ではなくて、これまでの節電対策を徹底する取り組みをお願いしたいと考えております。地域におけますエネルギー問題は、本日まで出席いただきます皆様方のご理解をいただいてこれから解決していくものと考えておりますので、引き続き『21世紀のエネルギーを考える会・みえ』様が、当地のエネルギー問題につきまして中核的リーダー的役割を果たしていただきまして、三重県民の皆様のエネルギーについての正しい理解が膨らむものと大いに期待しております。」と挨拶されました。

また、三重県議会の山本教和議長は「これから日本は発展していかなければなりません。そんな意味でエネルギーの大切さ、みんなが考えていかなきゃいけない。そんな風に考えているところでございます。今日ご出席の皆さんは、県のまさにチャンピオンとしてそれぞれの地域で啓発活動にご尽力いただきますように心からお祈りを申し上げお祝いの言葉といたします」と挨拶されました。



■来賓挨拶：山本教和氏  
(三重県議会 議長)

総会では小菅会長の議事進行により、平成24年度の事業計画、役員改選期による人事案件等の審議が行われ、満場一致で承認されました。また、県に対し、エネルギー・環境に関する正しい情報発信と理解向上施策の推進、温室ガス排出削減に資する諸施策の推進などを内容とした声明書を奈須事務総長が読み上げ、こちらも満場一致で承認されました。

総会終了後は、冷泉為人氏（冷泉家25代当主、冷泉家時雨亭文庫理事長、同志社女子大学客員教授）による「冷泉家の歴史と文化」と題した記念講演が行われ、会員たちは興味深く聞き入っていました。（講演内容は、P6に掲載）



■来賓挨拶：稲井田敬一氏  
(経済産業省中部経済産業局  
資源エネルギー環境部 電源開発調整官)

総会終了後は、冷泉為人氏（冷泉家25代当主、冷泉家時雨亭文庫理事長、同志社女子大学客員教授）による「冷泉家の歴史と文化」と題した記念講演が行われ、会員たちは興味深く聞き入っていました。（講演内容は、P6に掲載）

## 1 基本方針

当会は、これまで、エネルギー・環境問題を県民一人ひとりの問題として訴え、その解決策として、太陽光・風力等の再生可能エネルギーの活用、原子力の必要性、省エネルギーの推進についての理解促進を図る等、国策を踏まえた立場で低炭素社会の実現に向けた活動を展開してきた。

しかし、昨年3月11日の東日本大震災による東京電力福島第一原子力発電所事故を契機に、我が国におけるエネルギー需給構造に対する新たな課題が浮き彫りとなり、さらにはエネルギーに対する国民意識の高まりにより、「再生可能エネルギーの積極的な活用」や「原子力依存の低減」等が大きくクローズアップされてきた。

そこで、当会は23年度においては、将来的なエネルギーの安定供給や震災以降注目されている再生可能エネルギーの適正評価、地球環境への影響を考慮したエネルギー需給構造のあり方等について、さらには放射能に関する理解拡大等について、県下でシンポジウム・講演会・見学会等の活動を通じて県民の皆様幅広く啓発や問題提起をしてきたところである。

そのような中、本年5月には国内の原子力発電所が全基停止し、火力発電による代替運転等で電力の供給力を確保している状況から、温室効果ガスの排出量が著しく増加しており、我が国における地球温暖化については一層深刻な状況となってきている。

これは、世界的に深刻な問題であるとされる「地球温暖化防止」や「低炭素社会の実現」に向けた取り組みが我が国でも必要とされる中、大変深刻な事態だと考える必要がある。

また、今後の電力需給状況については、原子力発電所の再稼働が不透明なことから今夏の需要ピーク時は供給力不足に陥るとの見方もあり、日本経済や私たちの生活に多大な影響を及ぼすことが懸念されるため、これまで以上に節電や省エネルギーの推進に真剣に取り組む必要がある。

本来、エネルギーや環境問題に関しては、国・県はもとより国民一人ひとりが自分自身の問題として捉え、考え、行動することが重要である。

そのため、24年度は、この夏を目途に策定されようとしている国の「エネルギー基本計画」が、超少資源国である我が国にとって、将来にわたり持続的発展と国際的役割を果たしていくにふさわしい内容となることを期待する。

同時に、国の「エネルギー基本計画」が策定された暁には、当会としては、その内容を踏まえた事業活動を展開していくとともに、「環境との調和を図ったエネルギーの確保」等による低炭素社会の実現について、正しく理解していただける層の拡大を図っていく。

そこで、基本的には、23年度事業を踏襲する形の啓発活動や提言活動については、新たに女性層および青壮年層にも対象を広げて実施するとともに、公募見学会を開催することで、県民の皆様の「正しい理解・判断・行動」に繋げていく。

## 2 活動計画

### (1) 啓発活動

#### ア 会員に対する啓発活動

会員を対象とした講演会や見学会を通じた啓発活動を展開し、エネルギー・環境に関する更なる理解拡大を図る。

- ①地区別講演会・出前 PA
- ②エネルギー関連施設見学会
- ③会報誌の発行（年 2 回）

#### イ 県民に対する啓発活動

広く県民を対象とした講演会・シンポジウムおよび見学会やメディアの活用等を通じた啓発活動を展開し、エネルギーや環境に関する正しい情報を発信し、県民がエネルギー・環境問題について考える機会を提供する。

- ①地区別講演会・公開シンポジウム
- ②エネルギー関連施設見学会（公募）
- ③ラジオによる情報発信
- ④メディアへの広告出稿
- ⑤各種団体の大会誌への広告掲載
- ⑥当会ホームページによる情報提供
- ⑦会員の拡大

### (2) 要望活動

声明書の趣旨を要望書として国、三重県知事、三重県議会議長に要望する。

また、上記要望事項に対する側面的支援を国会議員、首長、市町議会議長、商工会議所会頭、商工会会長に要望する。

### (3) 提言活動

「三重県の持続的成長」に向けた、エネルギー・環境問題に関する調査・研究を行い、その成果を広く発表するとともに、県内有識者や各種団体等に対して提言する。

### (4) 各種団体等との連携強化

上記の啓発活動や提言活動をより効果的なものとするため、経済界を始めとする関係諸団体と連携した活動を積極的に展開する。

特に今年度は女性層や青壮年層へのアプローチによる理解者層の拡大を図る。

## 声 明 書

我が国は、超少資源国であり、エネルギー資源の大部分を海外からの輸入に頼っていますが、エネルギーセキュリティ面で課題があり、持続的な発展を維持していくためには、安定的なエネルギーの確保が不可欠であります。

また、世界的な問題である「地球温暖化問題」に対しては、国際的な使命として積極的に取り組む必要があります。

そのような中、昨年3月11日の東日本大震災による東京電力福島第一原子力発電所事故を契機に、我が国におけるエネルギー需給構造に対する新たな課題が浮き彫りとなり、エネルギーや環境を取り巻く状況が大きく変化しました。

さらに、本年5月には国内の原子力発電所が全基停止したことにより、火力発電による代替運転等で電力の供給力を確保している状況から、温室効果ガスの排出量が著しく増加しており、我が国における地球温暖化については一層深刻な状況となってきています。

また、今後の電力需給状況については、原子力発電所の再稼働が不透明なことから今夏の需要ピーク時は供給力不足に陥るとの見方もあり、日本経済や私たちの生活に多大な影響を及ぼすことが懸念されるため、これまで以上に節電や省エネルギーの推進については、真剣に取り組む必要があります。

当会は、これまで、エネルギー・環境問題は県民一人ひとりの問題として訴え、その解決策として、太陽光・風力等の再生可能エネルギーの活用、原子力の必要性、省エネルギーの推進について、理解促進を図る等、国策を踏まえた立場で低炭素社会の実現に向けた活動を展開してまいりました。

低炭素社会の実現は、地球に暮らす私たちに安心、快適、豊かさをもたらすものであり、私たちにはそれを次世代に残していく責任があるのです。

そのため、24年度は、この夏を目途に策定されようとしている国の「エネルギー基本計画」が、超少資源国である我が国にとって、将来にわたり持続的な発展と国際的役割を果たしていくにふさわしい内容となることを期待します。

同時に、国の「エネルギー基本計画」が策定された暁には、その内容を踏まえた事業活動を展開していくとともに、「環境との調和を図ったエネルギーの確保」等による低炭素社会の実現について、正しく理解していただける層の拡大を図ってまいります。

本来、エネルギーや環境問題に関しては、国・県はもとより国民一人ひとりが自分自身の問題と捉え、考え、行動することが重要であると考えており、この問題の解決に向けては、国や県行政および産業界の側面的なご支援が不可欠であります。

そこで、三重県知事、三重県議会、三重県経済界を始めとする関係諸団体には、それぞれのお立場からのご指導、ご支援をいただきたく、また、国には、低炭素社会の実現に向け、本日、下記の事項について、要望いたします。

### 記 要望事項

#### 1 県当局等

- 一 エネルギー・環境に関する正しい情報発信と理解向上施策の推進
- 一 ピーク時の節電、省エネルギーの推進に関する県民的活動の展開
- 一 未来を担う子どもたちに対するエネルギー・環境教育の充実
- 一 温室効果ガス排出削減に資する諸施策の推進

#### 2 国

- 一 我が国の「持続的な発展」、「低炭素社会の実現」、「エネルギーセキュリティの確立」を目指したエネルギー基本計画の策定

以上、声明いたします。

平成24年6月5日  
「21世紀のエネルギーを考える会・みえ」

## 記念講演会

# 「冷泉家の歴史と文化」

講師：冷泉為人氏



## PROFILE

冷泉 為人（れいぜい ためひと）

冷泉家25代当主、  
冷泉家時雨亭文庫理事長、  
同志社女子大学客員教授

昭和19年3月2日生、兵庫県加古郡稲美町出身  
関西学院大学大学院文学博士課程満期退学  
文学修士号修得（関西学院大学）、近世絵画専攻



冷泉氏は、「多くの大火があった頃も、蔵の養生したといわれています。濡れ布団を蔵の上にかけて目張りをして養生をし、蔵も蔵の中も焼けずに、現在に伝えられています。まさに歴史を見ると昔の人の智慧がうかがえます。」と話し、年中行事にまつわる貴重品をスライドで紹介しました。また、日本を代表する典籍類を「神」として拝め代々伝え、800年続いたと話しました。

■冷泉家は、歌人・藤原定家の歌人の子孫で、居所は、寛政2（1790）年の建築である。文庫には、国宝の藤原俊成自筆「古来風風躰抄」他、多くの貴重な典籍が保存されており、重要文化財に指定されている。居所は、京都御所にあった公家屋敷の中で最後に残った貴重な建物、こちらも重要家財に指定されている。

## 要望活動

### 三重県知事、県議会議長などに要望書を提出

平成24年度総会で採択された「声明書」（P5参照）に沿った要望書を三重県知事、三重県議会議長、経済産業省中部経済産業局長に提出しました。

また、7月下旬から8月にかけて県内市町の首長・議長等や商工会議所会頭や商工会会長にも同要望書を提出し、理解を求めました。



■三重県知事  
（平成24年7月17日）



■三重県議会議長  
（平成24年7月13日）



■経済産業省中部経済産業局長  
（平成24年7月3日）

# 啓発活動

## 講演会(共催)

当会より講師を派遣し、エネルギー・環境問題についての理解を深めていただきました。

### ■ JCI (公益社団法人 日本青年会議所) 第 42 回三重ブロック協議会会員大会

開催日：平成 24 年 9 月 16 日 (日)

会場：津市センターパレスホール

講師：松本 真由美 氏 (東京大学先端科学技術研究センター特任研究員)

テーマ：エネルギーの未来を考えよう

参加者：230 名



### ■ エネルギー講演会を聴講して

三重ブロック協議会 会員大会運営委員会 委員長 川口 公伺郎

日本各地にてエネルギー問題が議論をなされておりますが、日本のおかれている現在のエネルギー状況や国際情勢を検討せずに、原子力発電所が必要か、不必要か、いきなり最終結論へいつてしまっているのではないかと、感じてしまうのは私達だけでしょうか。そこで、現在の状況を知って頂くことで、これからのエネルギーについて考え頂きたいと思い、東京大学先端科学技術センター特任研究員 (エネルギー・環境分野) の松本真由美氏を講師にお招きをし、基調講演「エネルギーの未来を考えよう」を開催させて頂きました。講演を通じて、エネルギー問題は夏の電力不足が解決できれば良いのではなく、国際的な視野で短期的・長期的に分けて考えていかなければならないことやしっかりと状況を把握し、検討をした上で結論を出すことが、今本当に必要なのではないかと気づかせて頂いた講演となりました。最後に講演に対してご後援を頂きました、「21 世紀のエネルギーを考える会・みえ様」に心から感謝の意を申し上げます。

## 見学会

再生可能エネルギー施設等を見学いただき、今後のエネルギーのあり方について考えていただきました。

### ■ 桑名三川商工会 工業部会

開催日：平成 24 年 6 月 16 日 (土)

見学場所：中部電力(株) メガソーラーたけとよ

参加者：25 名



### ■ 津北商工会

開催日：平成 24 年 9 月 8 日 (土) ~ 9 日 (日)

見学場所：(1 日目) 中部電力(株) メガソーラーたけとよ

(2 日目) 中部電力(株) 浜岡原子力発電所

参加者：19 名



### ■ 研修会に参加して

津北商工会 事務局長 鈴木 裕道

いわゆる 3.11 以降、普段当たり前のように使っている電気エネルギーについて深く考えるようになりました。新聞、テレビからは、原子力はリスクが高く、これからは自然エネルギーの時代だという報道が日常的に流れてきます。私もこのような報道を見ると放射能は怖いと感じますし、原子力発電がなくても、安い電気料金で、安定的に電気が使えれば生活ができればいいなと感じてしまいます。しかし、国土が狭く、資源の少ない日本で、そのような生活が本当にできるのかは、専門家でない私にはわかりません。ただ、現代の豊かな生活の中で、医療や福祉の現場も含め、電力の消費量が非常に多くなってきているということは感覚的によくわかります。(次頁に続く)

今回研修会に参加して、中部電力の武豊火力発電所の方より貴重な話を伺いました。メガソーラーの現状、2年間稼働していなかった火力発電施設を再稼働させるに至った経緯、稼働までの苦労話、電力は備蓄することができないため、需要量を予測して一定の電圧で供給しなければならないことなど、これまであまり意識したことない電力の発電現場の大変さを知ることができました。同時に、日々当たり前のように電気を使わせていただいていることをありがたく思うようになりました。また、太陽光発電は、晴れの日には発電するが曇りや雨の日には発電量が低下し夜は発電しない、風力発電は、ほどよい風でないと稼働できない、火力発電は莫大な化石燃料費が必要で、しかも二酸化炭素が大量に発生する、水力発電は雨が大量に降ると稼働できないなど、どの発電方法も多くの問題を抱えていることがわかりました。

私たちは、豊かな生活を次の世代へ引き継ぐためには安定的に電気エネルギーを使える環境を引き継がなければなりません。そのためには、地球規模で電気エネルギーのことを考える必要があるのです。3.11を教訓として、日本が世界的に安定した地位と競争力を保ちつつ、この豊かな生活を子供、孫、ひ孫へと引き継いでいく責任が、私たちにはあるのではないかと強く感じました。

### ■三重県新生活運動推進協議会

開催日：平成24年9月27日（木）  
見学場所：中部電力㈱川越火力発電所、  
中部電力㈱メガソーラーたけとよ  
参加者：58名



## 役員研修

### 第6回役員懇話会

当会役員の皆様方を対象に、エネルギー・環境問題に関するご理解をさらに深めていただくことを目的に懇話会を開催しました。

開催日：平成24年3月14日（水）  
会場：ホテルグリーンパーク津  
講師：澤 昭裕氏（21世紀政策研究所 研究主幹、NPO 法人国際環境経済研究所 所長）  
テーマ：「いま、何を議論すべきなのか」～エネルギー政策と温暖化政の再検討  
参加者：小菅会長はじめ44名



澤氏は、エネルギー政策の見直しの論点として、エネルギーの安定供給の責任とコスト負担のあり方や、エネルギー産業の編成等について分かりやすく説明いただきました。

### 第4回役員視察会

「防災」をテーマとして当会役員の皆様方を対象に、エネルギーや地震防災等に対する理解を深めていただくことを目的に視察会を開催しました。

開催日：平成24年7月23日（月）～24日（火）  
見学場所：（1日目）中部電力㈱浜岡原子力発電所  
（2日目）静岡県地震防災センター、中部電力㈱東清水変電所  
参加者：小菅会長はじめ26名



初日は、浜岡砂丘（御前崎市）と浜岡原子力発電所を視察しました。原子力館では、展望台より浜岡原子力発電所の全景を見ながら津波対策工事の概要説明を受けました。その後館内にある実物大の防波堤模型を前に説明を受けました。

東日本大震災による福島第一原子力発電所の事故の調査や、中央防災会議の検討から浜岡原子力発電所は、津波対策が考えられ工事がすすめられていました。

防波壁を目の前に、津波による発電所敷地内への浸水防止の役割を確認し、また、仮に津波が防波壁を超えた場合でも、海水冷却維持と建屋内浸水防止、緊急時の対策の強化として、確実かつ安全に原子炉の安定した冷温停止状態に導く仕組みの説明を受けました。

また、原子力研修センターや、3号機の海水系ポンプ防水壁、緊急対策所なども見学し、本年12月の完工を目標に全力で津波対策工事がすすめられていることを知ることができました。

翌日は、静岡県地震防災センターと東清水変電所を見学し、2日間でエネルギーや地震防災対策等に対する理解を深めることができました。

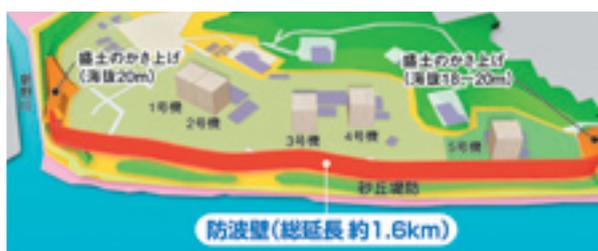
## 中部電力(株) 浜岡原子力発電所



■ 遠州灘に広がる長大な浜岡砂丘。太平洋側最大級の砂丘地帯で、天竜川から流出する土砂が沿岸潮流に乗り、『遠州の空っ風』と呼ばれる強い西風によって内陸に運ばれて形成されています。(砂丘の高さは海面から約10m~15m) ここから、浜岡原子力発電所が見えます。



■ 防波壁や盛土のかさ上げイメージ



出典先：中部電力(株)

■ 浸水防水対策として、発電所の敷地前面に設置されている総長約1.6 km、海拔18m 防波壁。基礎の部分は工事が完了しており、壁部を構成する床版と壁設置工事が進められていました。

## 静岡県地震防災センター



静岡県地震防災センターは、東海地震に立ちむかうための知識と技術の向上、防災意識の向上を図ると同時に、自主防災組織の活性化を図る目的として、平成元年に開館。年間約4万人が訪問しています。

■静岡県地震防災センター 起震装置で地震の揺れを体感しました。

## 中部電力(株) 東清水変電所

東清水変電所は、静岡県清水区にある中部電力の変電所です。また、周波数変換設備としての役割があります。日本の電気は、西日本の60Hzと東日本の50Hzと周波数が異なるため、そのままつなぐことはできませんが、周波数変換設備があれば、災害時や電気設備のトラブルによる電力不足などの緊急時にも、西と東の間で電気のやり取りができます。



■サイリスタバルブ 交流を直流に変換したり、直流を交流に変換する装置です。



■変圧器 高い電圧を各設備にあわせた低い電圧に変えるための装置です。

## PA活動

当会に対し講演依頼があり、服部勝事務局長がエネルギーの実状について出前PAを行いました。

### ■全本田労連三重地協 労使全体懇談会

開催日：平成24年5月9日（水）

会場：鈴鹿サーキットホスピタリティーラウンジ

講師：服部 事務局長

テーマ：「エネルギーのこと 環境のこと ご一緒に考えてみませんか！」

～正しく知ろう エネルギーのこと、環境のこと～

参加者：約130名

## 公開シンポジウム・松阪

**テーマ** エネルギーのこと 環境のこと  
 と一緒に考えてみませんか!

**日時** 平成24年11月28日(水)  
 13:00~17:00(受付12:30~)

**入場無料**

**会場** フレックスホテル  
 松阪市中央町36-18 TEL:0598-52-0800

基調講演・コメンテーター



「エネルギー政策と  
 温暖化政策について」

講師:澤 昭裕 氏

【21世紀政策研究所研究主幹、NPO法人国際環境経済研究所 所長】

パネルディスカッション 「エネルギー政策と再生可能エネルギーの戦力化」

コーディネーター



伊藤 達雄氏  
 国立大学法人三重大学名誉教授、  
 愛知工業大学客員教授、  
 鈴鹿医療科学大学客員教授、  
 中部エネルギー・  
 温暖化対策推進会議議長

パネリスト



壁谷勢津子氏  
 経済産業省  
 中部経済産業局  
 資源エネルギー  
 環境部  
 電力事業課長



山川 進氏  
 三重県雇用経済部長



小崎 茂生氏  
 株式会社青山高原  
 ウィンドファーム  
 常務取締役総務  
 部長



高橋 幸昭氏  
 水土里ネット  
 立梅用水事務局長



辻 保彦氏  
 辻製油株式会社  
 代表取締役社長



中村 充孝氏  
 三交不動産株式会社  
 総合企画室部長・  
 環境エネルギー  
 事務部長

## 地区別講演会・志摩

**入場無料**

**日時** 平成24年12月6日(木)  
 19:00~20:50(受付18:30~)

**会場** 志摩市商工会館  
 志摩市阿児町鶴方 5012 番地 TEL:0599-44-0700



講師:神津 カンナ 氏 (作家)

テーマ:「しなやかに<sup>いま</sup>現在を生きる」  
 ~身近なエネルギーと環境問題~

## 地区別講演会・川越

**入場無料**

**日時** 平成24年12月14日(金)  
 14:00~15:50(受付13:30~)

**会場** 朝明商工会館  
 三重郡川越町豊田一色 405 番地 TEL:059-365-6603



講師:神津 カンナ 氏 (作家)

テーマ:「しなやかに<sup>いま</sup>現在を生きる」  
 ~身近なエネルギーと環境問題~

## 地区別講演会in津

**入場無料**

**日時** 平成24年12月21日(金)  
 14:00~15:50(受付13:30~)

**会場** 津市芸濃総合文化センター【大研修室】  
 津市芸濃町椋本 6824 番地 TEL:059-265-6000



講師:竹内 純子 氏  
 (国際環境経済研究所 主席研究員)

テーマ:「ドイツに学ぶ環境・  
 エネルギー政策の今後」  
 ~再生可能エネルギーの実力は!?~



放送時間

月▶8:25~8:27  
 木▶17:48~17:50  
 土・日▶月5回

当会の活動をより多くの  
 県民の皆さま方に知って  
 いただくためのレディオ  
 キューブFM三重で当会のコ  
 マーシャルを放送しており  
 ます。当会の活動理念であ  
 る「低炭素社会の実現」の  
 重要性を説明したり、当会  
 行事の案内を行ったりして  
 います。ぜひお聴きになっ  
 てください。

## 会員の募集

当会では、会員の募集を行っています。  
 21世紀におけるエネルギー・環境問題を共に考え、行動する人の「輪」を広げています。  
 当会にご関心をお持ちの未入会の企業、団体、一般の方に一声お掛けいただきますよう、  
 お願いいたします。

# 役員名簿・編集後記

## 役員等一覧 (平成24年10月1日現在)

### ■会長

小菅 弘正 (四日市商工会議所 顧問)

### ■副会長

竹林 武一 (三重県商工会議所連合会 会長)  
 藤田 正美 (三重県商工会連合会 会長)  
 佐久間 裕之 (三重県中小企業団体中央会 会長)  
 岡本 直之 (三重県経営者協会 会長)  
 藤原 義治 (三重友愛連絡会 議長)  
 井坂 紀之 (エネルギー問題三重県研究会 代表世話人)

### ■理事

齋藤 彰一 (三重県商工会議所連合会 副会長)  
 上島 憲 (同上)  
 中井 均 (同上)  
 山本 忠之 (同上)  
 西村 憲一 (同上)  
 川口 佳秀 (同上)  
 奈須 庄平 (四日市商工会議所 専務理事)  
 安藤 邦晃 (三重県商工会連合会 副会長)  
 服部 基恒 (同上)  
 辻 丈昭 (同上)  
 坂下 啓登 (同上)  
 藤村 達司 (同上)  
 竹尾 博光 (三重県中小企業団体中央会 副会長)  
 三林 憲忠 (同上)  
 向井 弘光 (同上)  
 黄瀬 稔 (同上)  
 菊川 靖之 (三重県経営者協会 副会長)  
 樋田 昭和 (同上)  
 馬場 嘉朗 (同上)  
 小林 長久 (同上)  
 高崎 征輝 (同上)  
 稲葉 邦成 (同上)  
 浅野 啓介 (電機連合三重地方協議会 副議長)  
 法所 誠 (自動車総連三重地方協議会 議長)  
 木村 敬明 (UIゼンセン同盟三重県支部運営評議会 副議長)  
 長谷川 誠 (JEC連合三重地方連絡会 幹事)  
 伊藤 圭一 (日産労連三重地方協議会 議長)

### ■理事

宮崎 三代橋 (交通労連中部地方総支部三重県支部 支部長)  
 東浦 敏久 (基幹労連三重県本部 幹事)  
 広垣 和彦 (電力総連三重県電力総連 会長)  
 石井 盟眺 (日本青年会議所東海地区三重ブロック協議会 会長)  
 大川 妙子 (三重県地域婦人団体連絡協議会 顧問)  
 伊藤 幸子 (三重県新生活運動推進協議会 会長)  
 青木 重孝 (三重県医師会 会長)  
 山下 晃 (社団法人三重県建設業協会 会長)  
 瀬河 英雄 (社団法人三重県建築士会 会長)  
 鯉江 盈 (三重県商店街振興組合連合会 理事長)  
 渡邊 一雄 (三重県電器商業組合 理事長)  
 楠 修次 (三重県電気工業工業組合 理事長)  
 伊藤 達雄 (都市環境ゼミナール 会長)

### ■監事

森岡 峯 (三重県商工会議所連合会 監事)  
 堀 博敏 (三重県一般労働組合同盟 書記長)

### ■事務総長

奈須 庄平 (四日市商工会議所 専務理事)

### ■事務局長

服部 勝 (21世紀のエネルギーを考える会・みえ)

### ■運営幹事

井ノ口 輔 胖 (三重県商工会議所連合会 専務理事)  
 佐々木 史郎 (三重県商工会連合会 専務理事)  
 伊藤 良夫 (三重県中小企業団体中央会 事務局長)  
 横田 正典 (三重県経営者協会 専務理事)  
 長谷川 善樹 (電機連合三重地方協議会 事務局長)  
 竹内 孝昇 (電力総連三重県電力総連 執行委員)

### ■広報委員長

長谷川 善樹 (電機連合三重地方協議会 事務局長)

### ■広報委員

井ノ口 輔 胖 (三重県商工会議所連合会 専務理事)  
 古井 和典 (三重県商工会連合会 事務局長)  
 伊藤 良夫 (三重県中小企業団体中央会 事務局長)  
 横田 正典 (三重県経営者協会 専務理事)  
 竹内 孝昇 (電力総連三重県電力総連 執行委員)

## 編集後記



事務局長 服部 勝

平素は、当会の活動に対しまして格別のご理解・ご協力を賜り、厚くお礼申し上げます。

また、6月8日に開催いたしました平成24年度総会には、ご多忙のところ多数のご出席を賜り、誠にありがとうございました。

さて、今、国において新たなエネルギー基本計画が策定されようとしております。

そのため、当会としましては、その内容を踏まえ、県民の皆さまの「正しい理解・判断・行動」に繋がる啓発活動を展開してまいります。

会員の皆さまにおかれましては、より一層のご支援、ご協力を賜りますようよろしくお願い申し上げます。

シンボルマーク

“共生”



「みえ」のイニシャル“M”と自然のイメージをモチーフに、自然環境と暮らし、エネルギーの共生を表現しています。色は海のブルーと樹木のグリーン、図形は地球であり、「三重」の海と山、美しい海岸線でもあります。ダイナミックな“M”で、未来に向けて発展していくエネルギーの躍動感を表しました。

### お問い合わせ先(事務局)

〒514-0004  
 津市栄町3丁目248番地  
 きりんセカンドビル302号  
 TEL&FAX(059)229-3790  
 HP▶<http://www.e-mie21.com/>